

# 大会規定

- 1 この規定は中学生の部、中学生ジュニアの部に適用する。
- 2 1チームの登録選手は11名以上25名以内とする。但しベンチ入りはオーダー表記入選手20名以内とする。
- 3 登録選手および登録されたチーム責任者(代表またはそれに代わる責任ある者でチーム責任者証を携帯している者)、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。ただし、チーム責任者、監督、コーチは、登録証を携帯すること。
- 4 組合せの若番号が1塁側ベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。
- 5 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 6 試合開始時刻の60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表5部、投球回数記録副表3部(または大会初日は直前大会参加報告書)を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
- 7 オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 8 試合開始までにチームがグラウンドに現れないときには、球審は没収試合を宣言することができる。
- 9 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正試合とする。試合成立後は開始から120分(ジュニアの部1日目の試合は110分、決勝戦は140分)を超えた場合、新しいイニングには入らず均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施規則」参照)
- 10 試合成立後に降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合、最終回に出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に上記理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
- 11 4回終了時10点差以上、5回以降7点差以上の場合、コールドゲームとする。
- 12 延長戦は8回(決勝戦は10回)までとし、同点の場合、次のイニングからは、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施規則」参照)
- 13 投手の投球回数は、1日7イニング以内、連続する2日間で10イニング以内とする。  
ただし、1試合中の投球回数は、各イニング毎に端数回数(0/3回・1/3回・2/3回)を切り上げてそれぞれ1回として合計する。なお、端数回数の0/3回は、新しいイニングに入って一死もとらずに降板した場合を示す。  
ダブルヘッダーでの連投を認めるが、2試合の合計投球回数を7イニング以内とする。  
1日7イニングに達した投手は規定イニングに到達した次の回以降および同日の次試合、連続する2日間で10イニングに達した投手は、規定イニングに到達した次の回以降および同日の次試合および翌日には、投手または捕手として試合に出場することはできない。  
ダブルヘッダーの両試合に登板した投手は翌日に投手または捕手として出場することはできない。連続する2日間共に投球を行い、かつ2日間の合計イニング数が5イニングを超えた投手(5イニングは可)及び3日間連続で登板した投手は、当日の次試合および翌日に投手または捕手として試合に出場することはできない。
- 14 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
- 15 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。また、指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。

- 16 1インニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。  
その投手は他の守備位置につくことができるが、同一インニングでは投手として登板することはできない。  
ただし、新しいインニング入れば、再び投手として登板することができる。
- 17 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
- 18 監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)
- 19 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 20 ボール回しをする時は1回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 21 投手は走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 22 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具2組を備えること。
- 23 ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
- 24 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 25 グラウンドの都合で規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
- 26 ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
- 27 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
- 28 試合前のシートノックを行うか否かは、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、球場責任者が決定するものとする。

## 【タイブレーク実施細則】

### (1) 特別規則

- (イ) 延長8回(決勝戦は10回)あるいは、試合開始から120分(ジュニア1日目は110分、決勝戦は140分)を超えて(何れか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

### (2) チーム及び個人記録

チーム及び個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

#### (イ) 投手記録

- ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打、無得点試合は認める。

#### (ロ) 打撃成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。